Ⅲ－2．「ありたいまちの姿」を考える視点（案）

「時代認識と尼崎市の現状」を踏まえ、主に次のような視点から、将来の尼崎市の「ありたいまちの姿」を考えています。

時代認識と尼崎市の現状	ありたいまちの姿を考える視点		ありたいまちの姿
■人口減少・少子高齢化の影響 ■経済のグローバル化に伴う地域社会の変化 ■情報社会の可能性 ■地域主体のまちづくり	高齢化の進行や社会経済情勢の変化に伴い、地域社会が変化しつつある。 高齢者や不安定な就業環境にある人々の増加は、互いに支え合い、つながりを保つことに対するニーズを高める。	互いに支え合う地域づくりと、そのための担い手の育成・活動支援が必要	人が育ち、互いに支えあうまち
■経済のグローバル化に伴う地域社会の変化 ■安全・安心に対する市民ニーズの高まり ■厳しい状況下で市民生活を守る工夫 ■構造的な課題の改善	市民の健康、安全・安心の確保は、市民生活を守る上で最重要の要素で、厳しい財政状況にあっても、行政が一定の責任を果たすべき領域。 安定した就労による経済基盤の安定は、意欲を持ちながら安心してくらすためにも、また、次世代を育成する上でもの重要な要素。 ・生きがいを持って暮らすためには、年齢に応じて健康を保持し、自立して暮らせることが重要。 ・入院や介護の必要なく、自立して暮らせることは、保険料や税等の負担の軽減、制度の維持にも繋がる。 ・年齢に関わらず「社会の支え手」を増やすことにもなる。	生活の質を守る観点からも、財政状況の悪化を防ぎ市民サービスを維持する観点からも、市民の健康、安全・安心を確保することは非常に重要な要素。	健康、安全・安心を実感できるまち
■求められる都市活力を高める工夫 ■土地利用 ■環境問題に関する可能性 ■情報社会とまちづくり ■地域資源の有効活用	高い生活利便性は尼崎市の魅力 産業、歴史・文化などの資源の可能性 整備を進めた公共施設などが十分に活用されているか	資源を活用・発信することで、活力と魅力あふれるまちとして発展する可能性がある。	地域の資源をいかした活力あるまち
■環境問題への関心の高まり ■厳しさを増す財政状況 ■社会基盤等の老朽化と更新、再配置	環境問題は、将来世代の生活の質の低下につながる深刻な課題 財政収支の構造的な乖離は、先送りできない深刻な水準になりつつある。	将来世代のくらしに責任を持ち、よりよいまちを引き継いでいくために、問題を先送りしない積極的な取組が必要。	次の世代に負担を残さない、将来に責任を持つまち